

平成21年度概算要求事項の内示について

歯学部長 前田 健康

この度、文部科学省より、歯学部が要求していた平成21年度概算要求事項（3件）について内示がありました。

○連携機能を活用した口腔からQOL向上を目指す連携研究

国立大学歯学部は平成15、16年度医療系学部等連携経費の補助を受け、全国国立大学歯学部長・病院長会議の下に、政策機能調整会議を設置し、連携機能を活用した研究推進について検討を進め、平成17年度より先端歯学教育国際ネットワークを発足させました。本ネットワークではこれまで3回のネットワークスクールを開催し、次世代を担う優秀な大学院生の発掘を行うとともに、大学間共同研究の可能性について議論を深め、平成18

年度からはネットワーク参加校を公私立歯科大学・歯学部まで拡大し、歯学領域における第一線教育研究者の集約的連携を図ってきました。

本事業は全国11国立大学法人歯学部がこれまで確立してきたネットワーク機能を活用し、全国7国立大学法人歯学部（新潟大学、岡山大学、広島大学、徳島大学、九州大学、長崎大学、鹿児島大学）が「口腔のQOL向上」をキーワードに協力連携を大学レベルで推進することで、得られた歯学研究成果を社会に還元し、国民の口腔機能の維持・回復することを目的としています。「口腔のQOL向上」を目指すために、口腔環境制御、摂食・嚥下機構、再生工学を研究の柱とし、口腔疾患の予防、診断、機能再建を含めた治療までの包

ファントムシミュレーション教育実習システム ～歯学技能教育の効率化、高度化～



括的な研究を進めます。なお、北海道大学、東北大学、東京医科歯科大学、大阪大学は研究協力機関として本事業に協力することとなっています。

新潟大学は本事業のとりまとめを行うとともに、これまで優れた研究実績をもつ摂食・嚥下機構の基礎・臨床研究を進めるとともに、口腔免疫機構研究、国際口腔疫学研究（口腔環境制御研究）、粘膜・骨膜培養研究（再生工学研究）を推進します。

大学間連携により効率的な研究を推進することが可能となり、第一線の教育研究者の集約的連携、融合分野への対応をはかり、研究成果を社会に還元し、国民のQOL向上に寄与することが期待されます。

○ファントムシミュレーション教育実習システム

近年の全国共用試験・モデルコアカリキュラムの導入、臨床研修の必修化などの国家的施策の導入、医療環境の変化等により、医歯学教育改革が進み、各大学では大学独自の教育目標を達成するための工夫をこらした教育が実践されています。歯学教育と医学教育は優れた医療人の育成という点では共通ですが、歯科衛生士教育を含めた歯学教育では技能教育の占める割合が大きいという相違点があります。しかしながら、歯学教育の特色である技能教育を実施する実習設備は昭和56年度に設置され、一部が機器更新されているものの、そのほとんどは旧来のままとなっており、新教育課程の円滑な運用は困難を極めています。また、従来の臨床基礎実習室は学問体系に沿った配置となっており、必ずしも臨床実習と臨床基礎実習が円滑に移行できる形態とはなっていませんでし

た。本学部としては、社会的に強く求められている優れた臨床技能を有する歯科医師・歯科衛生士の育成・輩出には、実習機器の更新に加え、新たな臨床基礎教育を構成する必要があることから本要求を行いました。

本要求では、4階保存矯正実習室に配置されているシミュレータ装置を5階補綴小児実習室に移設し、ファントムシミュレーション装置を新たに整備するものであります。また、5階補綴小児実習室の実習環境整備についても同時に実施する予定としています。このことにより、4階実習室では、歯科医師、歯科衛生士（口腔生命福祉学科）を育成するための臨床実習に必要な基本的臨床技能の習得を目的とし、この実習は主としてチェアーサイドでの治療操作を念頭におくものとなります。また、スモールグループでの臨床予備実習（基本的臨床技能の確認と反復練習）、臨床実習・卒後研修期間中での自己トレーニング、さらには主として臨床実習・卒後研修期間中に行うアドバンス的な内容の実習にも十分対応可能なものとなります。一方、5階実習室はチェアーサイドにおける歯科医師に必要な最低限の技工操作を可能とし、4階実習室における実習や臨床実習の前段階の総合的実習講義を行う設備として整備する予定にしています。既存の臨床基礎実習機の再配置を行うとともに、旧型器材の更新を行い、臨床基礎技工教育に供するものとして整備を行います。

○口腔生命福祉学科3年次編入学定員減

平成20年度4月に口腔生命福祉学専攻（修士課程）が設置されたことに伴い、3年次編入学定員を10名から6名に減ずるものです。